

希少動物モニタリング

希少動物モニタリング

1 サンショウウオ科2種

サンショウウオ科2種の生息調査を実施した。

ヒガシヒダサンショウウオ *Hynobius fossigenus*

5月23日と10月18日に西部地域で調査を行ったが、生息の確認はできなかった。

トウホクサンショウウオ *Hynobius lichenatus*

5月2日と6月10日に利根沼田地域で調査を行い、卵囊を確認した。

(金井 賢一郎・森口 一・中澤 和則・山崎 陽平)

2 ホトケドジョウ

今年度（令和4年度）は中部地域の中・小2河川計5地点で口径30cmほどのタモ網による生息確認調査を行った。いずれの地点でもホトケドジョウは確認できなかった。

(相澤 裕幸・松井 裕之)

3 アオハダトンボ

アオハダトンボ（トンボ目カワトンボ科）は主に平地から丘陵地の抽水植物や沈水植物が豊富な、砂底の河川中流域に生息する。群馬県では東部、中部、西部及び利根沼田地域で記録されている（大森 1985、群馬県 2012、2022）。利根川、渡良瀬川、烏川、鎗川、神流川各流域で分布しているが、局所的であり、各生息地の個体数は少ない。なお本種は群馬県（2022）で準絶滅危惧、環境省（2020）で準絶滅危惧（NT）に評価されている。

2019年の台風19号により、県内の河川、特に西部地域の河川は増水で植物が流出、2020年の調査ではほとんど確認できなかった。2021年の調査に引き続き、2022年は過去に本種が確認された河川を中心に、河川の植生の復旧の様子及び生息状況の確認を目的として調査を行った。

今年度の調査は、15河川について、29回実施した。

本種が確認できたのは7河川（西部地域8河川中3、東部地域3河川中3、中部地域3河川中0、利根沼田地域1河川中1）であった。その中で台風による増水とそのあとの河川改修で全く確認できなかった西部地域の1河川が以前に近い状態まで回復してきた。今後も継続して調査を進めたい。

引用文献

群馬県（2012）群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編 2012年改訂版、301pp. 群馬県、

群馬県（2022）群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編 2022年改訂版、297pp. 群馬県、

環境省（2020）レッドリスト2020昆虫類、（オンライン）<http://www.env.go.jp/press/107905.html>, 参照2023-1-28

大森武昭（1985）群馬県のトンボ類、群馬県動物誌、231-258、群馬県、

(岡崎 太郎・荒井 堅一)

4 コオイムシ科昆虫

タガメ *Kirkaldyia deyrolli*、オオコオイムシ *Appasus major*、コオイムシ *Appasus japonicus* が対象種である。

今年度の調査は、8月から12月にかけて中部・西部・利根沼田・東部地域13地点で4日間調査を実施した。

タガメについては、確認できなかった。

オオコオイムシについては、11月に西部地域の河川で新たな生息地を確認した。

コオイムシについては、これまでに確認されたことがある群馬県立ぐんま昆虫の森園内の休耕田で10月に成虫1個体を確認した。

(茶珍 護・宮原 義夫・土屋 清喜・内山 裕司)